



「大阪市残せ！」の声上げよう

市民ネット学習会 森立命館大学教授が講演

「勝手に合区？また都構想？もう一度、市民の手ではね返そう」と、「大阪市をなくさんとしてよ！市民ネットワーク(市民ネット)」が7日、大阪市中央区内で学習会を開きました。

特別区は半人前の従属自治体

市民ネットは、大阪市「大阪市をなくさんとしてよ！市民ネットワーク」が開いた学習会

を廃止・解体して「特別区」を設置する「大阪都」構想を再燃し返す中で活動を再開しようとして、今回の学習会を開きました。

「特別区」化(大阪都)の本質は①一つの自治体である大阪市が廃止され、4つか6つにばらばらにされ、別個の自治体になる②府と対等な関係にある自立した大阪市が、府に権限と財源を握られた半人前の「従属自治体」になることであり、「大阪市民には何のメリットもない」と強調しました。

「総合区」について森氏は、維新が「大阪都」構想を通すために持ち出したものだと言及。その設置には合区は必須でないにもかかわらず、副首都推進局の「総合区」素案では8区にすることが決まっているのは問題だと述べました。

さらに「総合区」内に旧行政区ごとに「地域自治区」を新設することで行政の仕組みが複雑になり、63億円の初期費用など様々なコストが生じることを示しました。

森氏は、維新の最大の狙いである「大阪都」に反対し、「大阪市の残せ」の運動を大きくし、議会で「特別区設置」案を了承させないことが重要だと提起。「総合区」では混乱の原因である合区の前提を外すことが必要だと語りました。